

稲作技術情報 No. 5

令和5年8月21日
鳥取県産米改良協会

今後の管理のポイント

■いもち病、カメムシ防除の徹底

- 穂いもちは発生後の防除が困難であるため穂ばらみ期及び穂揃い期の2回防除を徹底する。
- カメムシ防除は穂揃い期～乳熟期に行うとともに、斑点米カメムシ類が要防除水準を越える場合には直ちに防除を行うこと。

■完全落水は収穫5日前以降

- 早期に落水すると玄米の品質が低下することから、収穫5日前までは完全落水しないように間断かんがいを励行する。

■積算気温、青籾率を確認して適期に収穫

- 夏季が高温の年次は特に、刈遅れによる品質低下が見られ易い。
- 近日の気象経過及び1か月予報を基に、本年は以下の出穂後積算気温を目安に適期収穫を励行する。
 - ・ひとめぼれ:910～1, 110℃(青籾率 14～21%)
 - ・コシヒカリ :890～1, 140℃(青籾率 10～25%)
 - ・星空舞 :標高300m未満 1,000～1,260℃(青籾率 0～10%)
標高300m以上 920～1,170℃(青籾率 0～12%)
 - ・きぬむすめ:890～1, 100℃(青籾率 6～29%)

※早生品種の収穫適期は、昨年と同じ～2日程度早い予想:今後の気象条件で収穫適期は変動するため今後、農業試験場から8月下旬及び9月上旬に発表される最新の収穫適期予測を注視する。

I 天気概況

1 天気予報

中国地方 1か月予報 (8月19日から9月18日までの天候見通し)

令和5年8月17日
広島地方気象台発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



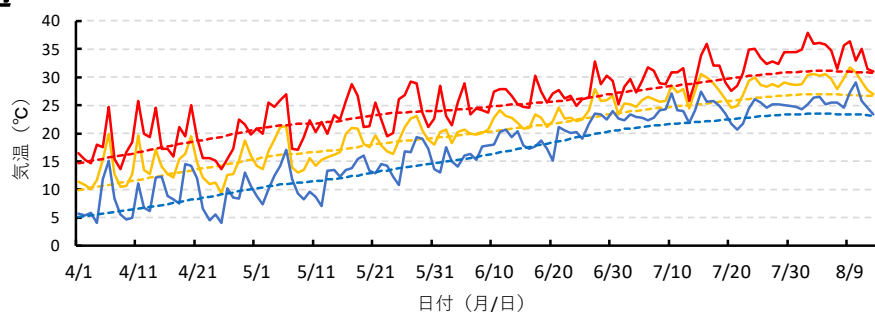
<気温経過の各階級の確率 (%)>



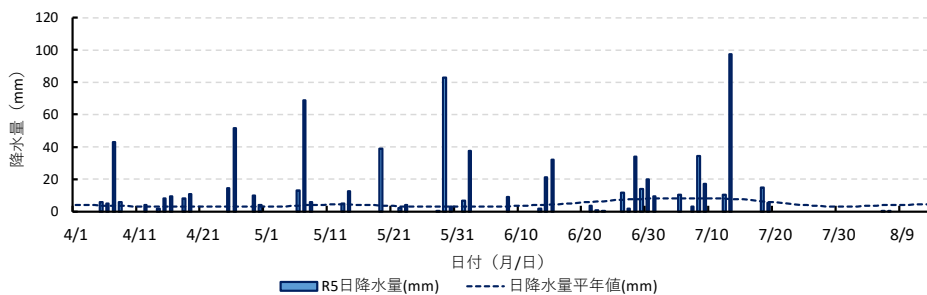
<予報の対象期間>

1か月	: 8月19日(土) ~ 9月18日(月)
1週目	: 8月19日(土) ~ 8月25日(金)
2週目	: 8月26日(土) ~ 9月1日(金)
3~4週目	: 9月2日(土) ~ 9月15日(金)

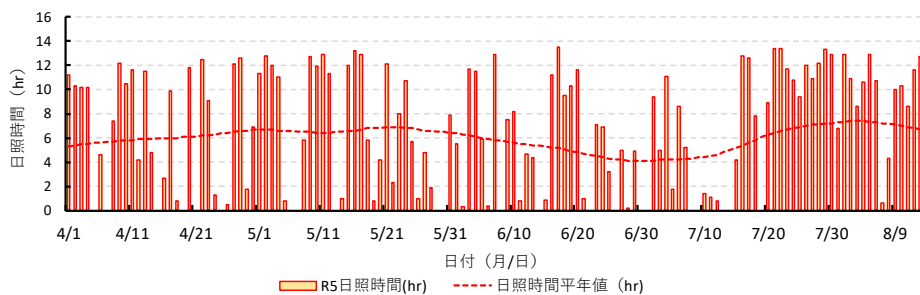
2 気象経過



4~8月の気温推移 (倉吉アメダスデータ)



4~8月の降水量 (倉吉アメダスデータ)



4~7月の日照時間 (倉吉アメダスデータ)

7月下旬の梅雨明以降、著しい高温と無降雨が継続し、渇水が見られる地域もある。

各期間の日降水量及び日照時間の合計と平年比較

月旬 (期間)	7月中旬 (7/11~20)		7月下旬 (7/21~31)		8月上旬 (8/1~10)	
	当年・平年	令和5 平年	令和5 平年	令和5 平年	令和5 平年	令和5 平年
降水量(mm)	74.5	81.5	0.0	42.0	1.0	37.0
日照時間(hr)	48.2	53.3	126.8	76.3	91.8	72.6

II 生育概況

- ・現地ほ場の生育は概ね順調である。
- ・目立った病害虫の発生は見られないが、紋枯病や稲こうじの発生が散見される。
- また、中西部の一部の地域でイナゴ類の発生が目立ち、虫害による白穂も見られる。

【農業試験場作況田】

○5月11日田植

- ・ひとめぼれの出穂期は7月23日(平年並)、茎数は多く葉色は平年並。出穂後20日の葉色も平年並に推移している。
- ・コシヒカリの出穂期は7月26日(平年-2日)、茎数は少なく葉色は平年並。出穂後20日の葉色はやや淡めに推移している。

○5月25日田植

- ・コシヒカリの出穂期は8月3日(平年並)、茎数は少なく葉色は平年並。出穂後10日の葉色はやや淡めに推移している。
- ・星空舞の出穂期は8月7日(平年-1日)、茎数はやや少なく葉色は平年並。出穂後10日の葉色も平年並に推移している。
- ・きぬむすめの出穂期は8月15日(平年+1日)、茎数及び葉色は平年並である。

5月11日移植(4月17日播種)

調査項目		ひとめぼれ			コシヒカリ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
生育ステージ	最高分けつ期	6月26日	6月27日	-1	6月30日	6月29日	+1
	幼穂形成期	6月30日	6月30日	0	7月4日	7月5日	-1
	出穂期	7月23日	7月23日	0	7月26日	7月28日	-2
	成熟期						
苗乾物重(mg/本)	田植時	14.7	15.9	92	14.6	16.8	87
	田植時	3.3	3.3	0.0	3.1	3.2	-0.1
	15日後	5.9	6.0	-0.1	5.4	5.8	-0.4
	25日後	7.7	7.9	-0.2	7.3	7.6	-0.3
	35日後	9.5	9.6	-0.1	9.1	9.4	-0.3
	45日後	10.7	10.8	-0.1	10.3	10.7	-0.4
	幼穂形成期	11.3	11.6	-0.3	11.3	11.9	-0.6
	出穂期(止葉葉位)	13.7	13.8	-0.1	13.1	13.9	-0.8
茎数(本/m)	田植時	57	67	—	57	57	100
	15日後	70	72	97	59	58	102
	25日後	185	196	94	136	155	88
	35日後	352	365	96	249	306	81
	45日後	579	521	111	392	444	88
	幼穂形成期	575	521	110	395	448	88
草丈(cm)	田植時	10.3	10.5	98	11.2	11.6	97
	15日後	19.2	20.4	94	23.7	23.5	101
	25日後	23.8	23.1	103	26.8	26.6	101
	35日後	32.8	32.6	101	35.5	34.3	103
	45日後	49.9	47.6	105	48.5	49.2	99
	幼穂形成期	57.9	57.9	100	62.6	67.5	93
葉色(SPAD値)	田植時	27.6	25.8	+1.8	25.1	24.0	+1.1
	15日後	29.6	30.3	-0.7	23.0	28.2	-5.2
	25日後	37.1	37.9	-0.8	35.0	37.0	-2.0
	35日後	38.5	39.1	-0.6	37.3	36.6	+0.7
	45日後	35.9	37.6	-1.7	33.4	36.7	-3.3
	幼穂形成期	37.9	36.5	+1.4	35.0	33.5	+1.5
出穂期	36.8	37.3	-0.5	38.9	38.5	+0.4	

5月25日移植(5月5日播種)

調査項目		コシヒカリ			星空舞			きぬむすめ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
生育ステージ	最高分けつ期	7月10日	7月4日	+6	7月10日	7月6日	+4	7月10日	7月5日	+5
	幼穂形成期	7月13日	7月12日	+1	7月19日	7月19日	0	7月25日	7月25日	0
	出穂期	8月3日	8月3日	0	8月9日	8月10日	-1	8月15日	8月14日	+1
	成熟期									
苗乾物重(mg/本)	田植時	19.5	15.8	123	15.5	15.9	97	16.1	15.4	105
	田植時	3.2	3.4	-0.2	3.3	3.4	-0.1	3.1	3.1	0.0
	15日後	5.9	6.2	-0.3	5.7	6.2	-0.5	6.0	5.9	+0.1
	25日後	8.1	8.0	+0.1	7.8	8.2	-0.4	8.2	7.9	+0.3
	35日後	10.0	10.0	0.0	9.6	10.0	-0.4	10.0	9.9	-0.1
	45日後	11.3	11.2	+0.1	11.1	11.2	-0.1	11.5	11.2	+0.3
	幼穂形成期	11.7	11.7	0.0	12.1	12.3	-0.2	13.0	12.9	+0.1
	出穂期(止葉葉位)	13.9	13.8	+0.1	14.1	14.4	-0.3			
茎数(本/m)	田植時	57	57	100	57	57	100	57	67	—
	15日後	59	81	73	72	88	82	82	106	77
	25日後	167	205	81	219	221	99	230	256	90
	35日後	314	384	82	418	451	93	448	470	95
	45日後	337	404	83	454	475	96	475	511	93
	幼穂形成期	330	395	84	432	458	94	446	450	99
草丈(cm)	田植時	13.9	12.7	109	13.2	12.2	108	14.5	13.1	111
	15日後	27.7	25.0	111	25.6	22.9	112	24.0	21.6	111
	25日後	31.0	30.9	100	29.7	28.3	105	30.5	28.6	107
	35日後	42.7	43.2	99	38.1	38.0	100	42.8	40.9	105
	45日後	65.5	65.0	101	60.2	57.3	105	70.7	65.2	108
	幼穂形成期	69.8	71.7	97	68.7	70.3	98	89.0	83.4	107
葉色(SPAD値)	田植時	25.7	26.7	-1.0	27.8	25.8	+2.0	27.0	25.9	+1.1
	15日後	26.2	32.3	-6.1	30.0	33.1	-3.1	31.9	32.0	-0.1
	25日後	34.4	36.3	-1.9	34.6	36.4	-1.8	37.6	37.2	-0.4
	35日後	37.2	36.7	+0.5	37.4	37.3	+0.1	36.8	37.1	-0.3
	45日後	34.9	35.6	-0.7	34.6	36.5	-1.9	36.8	36.9	-0.1
	幼穂形成期	34.6	33.9	+0.7	30.5	31.1	-0.6	28.3	29.4	-1.1
出穂期	36.4	37.0	-0.6	34.7	35.2	-0.5	33.4	35.1	-1.7	

Ⅲ 技術対策

1 病害虫防除

(1) いもち病

令和5年8月10日発表の、別紙1「令和5年度病害虫発生予察指導情報（対象害虫：イネ・いもち病）No.6」を参照。

(2) 斑点米カメムシ類

令和5年8月3日発表の、別紙2「令和5年度病害虫発生予察指導情報（対象害虫：斑点米カメムシ類）No.1」を参照。

2 水管理

(1) 早期落水により白濁粒が増加

・早期落水すると白濁粒が増加し、玄米品質が低下する。
 ・地耐力を高めるためには、間断かんがいにおける減水期間を長めにとり、徐々に土を固めていくこと。特に中干しが不十分なほ場で、早期の完全落水は絶対に行わず、間断かんがいを継続しながら田面を硬化する管理を徹底すること。

(2) 中生品種では特に早期落水に注意

・高温年でも安定して品質が良い「きぬむすめ」においても、早期落水により白濁粒が増加した事例が過去に確認されている。
 ・早生品種にあわせた水利慣行による落水の結果、中生品種では登熟期間中の早期落水となり、水分ストレスによって品質が低下する事例が各地で見られている。地域で話し合いを行い、きぬむすめの登熟にあわせた落水時期の設定を行うことが、産地全体の品質向上のためには特に重要である。
 ・現在、中生品種は出穂から登熟初期に当たっており、特に注意して間断かんがいを励行すること。

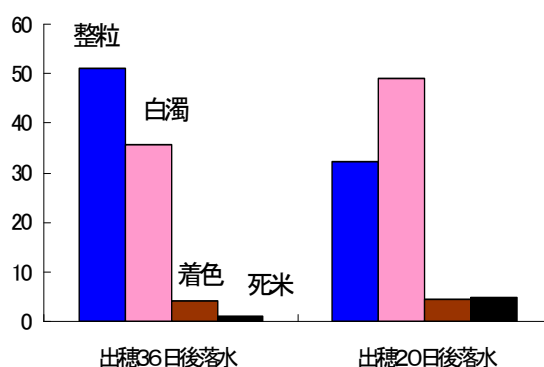


図 落水時期の違いによる玄米品質 (1995、鳥取農試)

※ (ビニールハウスで高温条件を作出)

3 適期収穫

(1) 本年の適期収穫の目安

本年度は、7月以降の気温が平年値より3.6℃高く推移しており、メッシュによる今後3週間の予測気温値も平年より1℃以上高く推移することが予測され、昨年と比較して2℃程度高い深刻な暑さとなる予想であることから、高温年として予測を実施した。

主要品種ごとの収穫適期目安

平成28年12月作成

品種	8～10月の気象区分	出穂後日数(日)	出穂後積算気温(℃)	青籾率(%)	籾水分(%)
コシヒカリ	通常年	—	1000	10.0	—
	低温年	38～46	910～1070	16～18	25～26
	高温年	33～42	890～1,140	10～25	23～26
ひとめぼれ	通常年	—	1,000	5～10	—
	低温年	43～45	1000～1,110	10～21	24～27
	高温年	38～42	910～1,110	14～21	24～28
きぬむすめ	通常年	40～45	1,050～1,150	5～13	22～24
	低温年	47～53	1,010～1,100	9～22	25

注1) 調査年次: 2014～2016年、調査場所: 現地(コシヒカリ: 7、ひとめぼれ: 4、きぬむすめ: 4)、農試2ほ場(作況田、中6ほ場)

注2) 8月～10月の鳥取市アメダスの旬別日平均気温の平年差により低温年(H26、27を平均)、高温年(H28)とした。

注3) 収穫時期は現地・農試データより推定した。現地試験以降の刈取時形質の数値は、農試試験を採用した。

○収穫適期は前年並～やや早い予想

・8月9日時点では、早生品種の収穫適期は、昨年と同じ～2日程度早い予想である。

○収穫適期の目安

・本年度も2016年まで行った収穫適期試験(上表)を基に、農業試験場が作成した品種別、標高別の収穫適期(5～6ページ)を参考に収穫時期を判定し、**予測収穫適期の3～4日前**には収穫の準備を行うこと。

・また、収穫適期が近づいたら、上表を参考にしながら、ほ場で青刈率を確認すること。

○青刈率

・青刈率が少々高い場合であっても、気象条件によっては収穫適期を迎えている場合が少なくない。

○高温年の弊害

・高温年には、成熟期以降の呼吸により、種子に貯蔵されたデンプンが分解消費され、基部未熟・背白を主体とする白濁粒が増加するため、収穫遅れによる品質低下が著しい。

○コシヒカリの収穫

・ひとめぼれとコシヒカリでは、品種特性としてひとめぼれの方が刈り遅れによる品質低下が少ないことがわかっており、場合によってはコシヒカリを先に収穫することが有効である。

例えば、コシヒカリが機械作業困難な程度に倒伏すると、穀粒が高水分で推移することで、穂発芽粒が発生するとともに、田面が乾燥しにくくなって更に収穫困難が想定される場合は、コシヒカリの収穫を優先する。

・コシヒカリとひとめぼれは収穫適期が近く、同時進行で収穫する場面が多いため、迅速に収穫乾燥作業を進めることで、極力刈り遅れとならないように配慮する必要があるが、同時に異品種混入を起こさないよう正確な区分作業が求められる。

(2) 標高別出穂期別の収穫適期予測(8月18日農業試験場公表)

鳥取県産米改良協会
鳥取県農業試験場

出穂した時期別の収穫適期予測について(令和5年8月18日現在)

【情報を活用する上での注意点】

○高温年での収穫適期は、出穂後の日平均気温積算値を基に予測しており、ひとめぼれ 910～1110℃、コシヒカリ 890～1140℃となる月日です(R4年度水稲・大豆・小豆栽培指導指針)。星空舞は、標高300m未満の地域で1000～1260℃(有効積算気温620～770℃)、標高300m以上の地域で920～1170℃(有効積算気温510～620℃)となる月日です(R4年版「星空舞」栽培手帳)。

○アメダスの実測値及び1ヶ月予報値を基に各1kmメッシュの日平均気温を推定し、積算気温により収穫時期を予測しています。

○収穫適期予測に必要な気象データは、農研機構と㈱ライフビジネスウェザーが共同開発し、㈱ライフビジネスウェザーが提供するメッシュ農業気象システムの気象データを用いています。

○あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。

○収穫適期を予測したいほ場の標高は、地図などで検索してください。

【現時点での状況】

昨年同時期の予測結果と比較して、

○ひとめぼれは、約2日程度早くなっています。

○コシヒカリ・星空舞は、昨年と同じ～2日程度早くなっています。

○きぬむすめは、高温の影響で昨年より大幅に収穫開始可能時期が早まっています。ほ場の様子を十分に確認したうえで、収穫時期を決める参考としてください。

ひとめぼれ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)				
	7/20	7/25	7/30	8/5	8/10
0~49m	8/20 ~ 8/28	8/25 ~ 9/2	8/31 ~ 9/8	9/7 ~ 9/16	9/14 ~ 9/23
50~99m	8/21 ~ 8/29	8/26 ~ 9/4	9/1 ~ 9/10	9/8 ~ 9/17	9/15 ~ 9/25
100~149m	8/22 ~ 8/30	8/27 ~ 9/4	9/2 ~ 9/10	9/9 ~ 9/18	9/16 ~ 9/26
150~199m	8/22 ~ 8/30	8/27 ~ 9/5	9/2 ~ 9/11	9/10 ~ 9/19	9/16 ~ 9/26
200~249m	8/23 ~ 8/31	8/28 ~ 9/6	9/3 ~ 9/12	9/10 ~ 9/20	9/17 ~ 9/27
250~299m	8/23 ~ 9/1	8/29 ~ 9/6	9/3 ~ 9/13	9/11 ~ 9/21	9/18 ~ 9/28
300~349m	8/24 ~ 9/1	8/29 ~ 9/7	9/4 ~ 9/13	9/11 ~ 9/22	9/18 ~ 9/29
350~399m	8/24 ~ 9/2	8/30 ~ 9/8	9/4 ~ 9/14	9/12 ~ 9/22	9/19 ~ 9/30

コシヒカリ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)				
	7/25	7/30	8/5	8/10	8/15
0~49m	8/25 ~ 9/3	8/30 ~ 9/10	9/6 ~ 9/17	9/13 ~ 9/25	9/20 ~ 10/3
50~99m	8/26 ~ 9/5	8/31 ~ 9/11	9/8 ~ 9/19	9/14 ~ 9/26	9/21 ~ 10/4
100~149m	8/26 ~ 9/5	9/1 ~ 9/12	9/8 ~ 9/20	9/15 ~ 9/27	9/21 ~ 10/5
150~199m	8/27 ~ 9/6	9/1 ~ 9/12	9/9 ~ 9/21	9/15 ~ 9/28	9/22 ~ 10/6
200~249m	8/27 ~ 9/7	9/2 ~ 9/13	9/9 ~ 9/21	9/16 ~ 9/29	9/23 ~ 10/7
250~299m	8/28 ~ 9/8	9/2 ~ 9/14	9/10 ~ 9/22	9/17 ~ 9/30	9/23 ~ 10/8
300~349m	8/28 ~ 9/8	9/3 ~ 9/15	9/11 ~ 9/23	9/17 ~ 10/1	—
350~399m	8/29 ~ 9/9	9/3 ~ 9/15	9/11 ~ 9/24	9/18 ~ 10/2	—

星空舞予測収穫適期

(月/日)

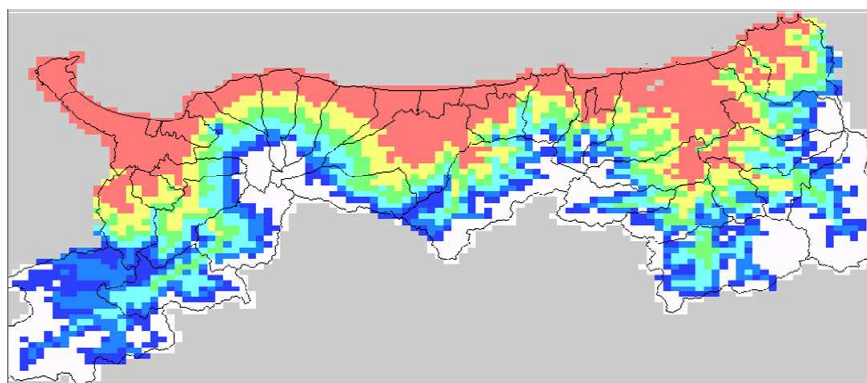
標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)				
	7/30	8/5	8/10	8/15	8/20
0~49m	9/3 ~ 9/13	9/10 ~ 9/21	9/16 ~ 9/29	9/23 ~ 10/6	9/13 ~ 10/14
50~99m	9/4 ~ 9/15	9/11 ~ 9/23	9/17 ~ 9/30	9/24 ~ 10/8	9/15 ~ 10/16
100~149m	9/4 ~ 9/15	9/11 ~ 9/24	9/18 ~ 10/2	9/25 ~ 10/9	9/15 ~ 10/18
150~199m	9/5 ~ 9/16	9/12 ~ 9/25	9/19 ~ 10/3	9/26 ~ 10/10	9/16 ~ 10/19
200~249m	9/5 ~ 9/17	9/13 ~ 9/26	9/19 ~ 10/3	9/26 ~ 10/11	—
250~299m	9/6 ~ 9/18	9/13 ~ 9/27	9/20 ~ 10/5	9/27 ~ 10/13	—
300~349m	9/4 ~ 9/15	9/11 ~ 9/23	9/18 ~ 9/30	9/24 ~ 10/8	—
350~399m	9/4 ~ 9/16	9/11 ~ 9/24	9/18 ~ 10/1	9/25 ~ 10/9	—

きぬむすめ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)			
	8/10	8/15	8/20	8/25
0~49m	9/12 ~ 9/21	9/18 ~ 9/28	9/24 ~ 10/5	10/1 ~ 10/13
50~99m	9/12 ~ 9/22	9/19 ~ 9/29	9/25 ~ 10/7	10/3 ~ 10/15
100~149m	9/13 ~ 9/23	9/19 ~ 9/30	9/26 ~ 10/8	10/4以降
150~199m	9/13 ~ 9/24	9/20 ~ 10/1	9/27 ~ 10/9	10/4以降

【参考】鳥取県内における1kmメッシュの平均標高分布図



4 適正な収穫・乾燥・調製作業

(1) 収穫

・穂もち、カメムシ類、内穎褐変病等病害虫の多発したほ場や、倒伏等により品質が著しく劣るほ場は、仕分けして刈取り、良質な籾と混ざることがないように乾燥も別で行う。

・倒伏の著しいほ場でのコンバイン刈取作業は、機械トラブルを避けるため、以下①～③に留意する。

①作業速度は低速

②刈取条数はやや控える

③倒伏した株は、倒伏方向に対して逆刈りは避け、追刈りとなるような行程を選択する

・刈取品種が変わる場合は、コンバインの清掃を確実にを行い、混種が起こらないように細心の注意を払う。コンバインの取扱説明書清掃の手順に従って適切に掃除口を開放し、エアーコンプレッサーや動力散布機の風圧を利用して、扱き胴・各種受け網、穀粒搬送オーガ等の残留籾を完全に排出させる。

(2) 乾燥

・乾燥機への張込時籾水分は、周期的な降雨や倒伏により30%以上となることもあるので、乾燥機の条件設定には十分注意する。高水分籾は高温下では急速に変質するので、収穫後は直ちに乾燥機に張込み、通風及び循環を行う。また、高水分籾は水分ムラが大きいので、25%程度まではなるべく常温で乾燥する。

籾水分(%)	28	27	26	25	24	23	22	21	20
放置可能時間(hr)	3	4	4	5	6	12	24	48	72

(注) 三重農試資料

(3) 調製

・籾の水分測定は、勘や感覚に頼らず正しく調整された水分計を用いて行う。試料は未熟粒を取除いた整粒のみとし、乾燥中の籾は穀温補正を行って測定する。

・乾燥機の熱風温度、循環速度は機種所定の方法に従い、毎時乾減率は0.8%以下(遠赤外線乾燥機は1.0%以下)とする。特に良食味を確保する際には、先ず低温で水分ムラを均してから、ゆっくり時間をかけて乾燥する。

・仕上げ水分は15.0～15.5%の範囲とし、過乾燥にならないように注意する。

・過乾燥を防止するためには、乾燥機のタイマー設定を1～2時間控えめとし、以後こまめに水分測定しながら仕上げる。また、青未熟粒の割合に応じて玄米水分を決定し乾燥機を止める。

乾燥後の玄米水分の変化の目安

100粒中の青未熟粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の玄米水分
0～5粒	16.0～15.6%	0.5%程度乾く
6～10粒	15.5～15.1%	ほとんど変わらない
11粒以上	15.0%	0.5%程度戻る

(注) 富山県米作改良対策本部資料

【参考1】適期収穫により、等級や食味の向上を目指しましょう

☆収穫適期では、水分が高く刈取りをためらう例が見受けられます。
 ☆水分を気にするあまり刈遅れにならないように、産地全体として適期収穫を推進しましょう。

【等級や食味向上で最も効果的な対策は？】

玄米は、①刈遅れ、②高温(特に夜温)、③籾数過剰、④栄養不足、⑤日射量不足の条件下で、白濁未熟粒の発生が多くなり、品質が低下することが知られています。今から講じることができる対策の内、最も効果的なものは、早期落水の防止による栄養状態の安定と適期収穫です。

刈遅れとなった場合に、白濁未熟粒(特に基部未熟粒)や着色粒、胴割粒が増加し、玄米外観上の充実度や光沢が劣ることから、適期収穫の玄米と比べて検査等級の低下につながりやすくなります。また、収穫が遅れると、食味も低下することが知られています。

鳥取県における等級低下の大きな要因の一つは刈り遅れであると考えられます。

JAでは、適期収穫への取組みを推進するため、収穫された籾の乾燥が適期に対応できるように、施設稼働の準備を進めています。また、収穫遅れによって、下図のとおり等級や食味評価が低下するという試験結果もあることから、生産者の所得低下や産地評価の低下に直結します。

産地全体の食味品質向上や生産者の所得向上のために、引続き適期収穫を徹底しましょう。

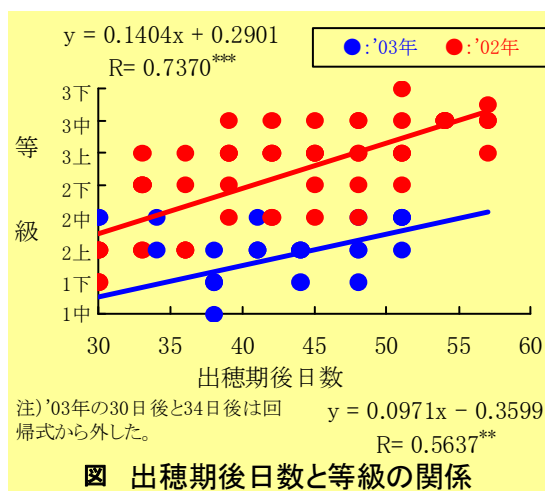


表 コシヒカリの収穫期別食味成績

サンプル	外観	味	総合	ランキング
適期収穫	0.30	0.50	0.55	A相当
適期10日後	-0.25	0.10	0.10	A'相当

鳥取農試産米を穀物検定協会に試験依頼した。

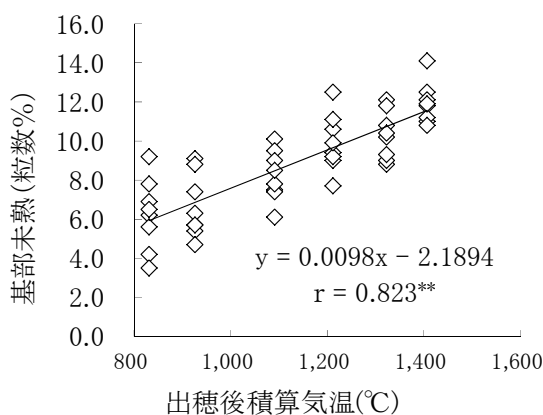


図. 「コシヒカリ」の出穂後積算気温と基部未熟との関係
 注1) 調査年次: 2011年、調査場所: 鳥取農試
 注2) n=48

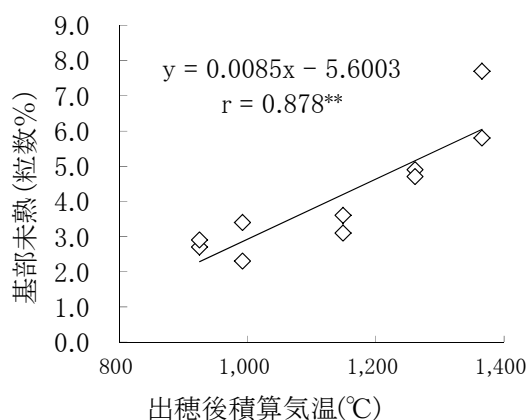


図. 「きぬむすめ」の出穂後積算気温と基部未熟との関係
 注1) 調査年次: 2013年、調査場所: 鳥取農試
 注2) n=10(坪40株・穂肥II 2kg)

【参考2】熱中症による死亡事故が多発しています。引続き熱中症対策を徹底しましょう。

**農作業中の熱中症が
毎年多発しています！**

農作業による熱中症救急搬送件数

年度	搬送件数(件)
H27	45
H28	45
H29	55
H30	50
R1	55
R2	75
R3	45
R4	65

家族など、身近な声かけから対策を始めましょう！

高齢者の発症が多くなっています！

救急搬送対象者の年齢構成

年代別	比率
90歳～	10%
～59歳	10%
60～69歳	13%
70～79歳	30%
80～89歳	37%

R1～4年平均

みんなであらゆる農作業中の熱中症を防ごう！！

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会
 事務局 鳥取県農林水産部経営支援課 電話0857-26-7327
 JA鳥取県中央会農業JA支援部農業くらし対策室 電話0857-21-2633

農作業中の熱中症の予防管理

○ 高温時の作業を避けましょう

- 最高気温30℃以上が予想される場合、**熱中症警報**が出されます。
- 県の「あんしんトリピーメール」や農林水産省の「MAFFアプリ」に登録しておく、スマートフォンに情報が提供されます。

○ こまめに休憩し、水分を補給しましょう

- 農作業には必ず水、氷(保冷剤)や濡れタオルなどを持参しましょう。
- 涼しい日陰等で休憩し、**20分ごとにコップ1~2杯の水分**と適宜塩分も補給しましょう。

○ 涼しい服装で、体温を調節しましょう

- 農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう。
- **空冷ファン付き着衣や冷却グッズを有効活用**し、作業中の体温を調節しましょう。

○ 作業は2人以上で行いましょう

- 急に動けなくなることがあるため、**1人での作業はできるだけ避けましょう。**
- 1人で作業する場合は、必ず、家族等に**作業場所と帰宅予定時刻を伝えましょう。**

○ 日頃から健康管理を行いましょう

- 「**おしっこカラーチャート**」で自身のカラダの脱水状態を確認して、水分補給を行います。
- 睡眠不足、体調不良、前日などの飲酒、朝食の未摂取、発熱、下痢などによる脱水などは、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあります。

熱中症に注意!!

おしっこカラーチャート

おしっこは、体の情報が盛り沢山!!

おしっこの色は何番ですか?

もしも**3番以上**の場合は、

「**水分と塩分の補給**」が必要です

尿の色	からだの状態と対応
1	正 水分補給は、 十分です。 予節のために 計画的に水分補給をしましょう
2	
3	注 脱水症への 傾向があります。 補給の頻度を増やすこと
4	
5	意 脱水症です。 水分補給 が必要です。 口から補給できますか?
6	
7	危 重度の脱水症です、 危険な状態 です。 直ぐに病院へ
8	

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

協議会からのお知らせ

【農作業安全研修の実施希望について】

県内では毎年死亡事故を含め農作業事故が発生しています。特に死亡事故は家族にとどまらず、地域農業や法人経営に大きな影響を及ぼします。

このため、協議会では**集落営農組織、法人等を対象にした研修(対話型研修)の推進**を図り、生産者の安全意識の向上と農作業安全の取り組みを一層進めることとしました。

研修を希望される方、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

<対話型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、生産者自ら仲間と情報共有しながら、安全対策についても話し合いを行います。これに基づいて組織や仲間での「安全対策」を定めて、みんなで一緒に取り組んでいただくきっかけとするものです。

